

山西小学校便り

もっと

山西っ子

《なかよく・かしこく・たくましく》

温もり
信頼
笑顔



11月13日(土)、6年生の希望者を対象に村の縄文笛づくりがありました。野焼きされた作品の出来栄が楽しみです。

令和3年12月2日(木) no.35 文責：上田
早いもので、今年も一月あまりとなりました。

PTA新聞「やまにし」No.93が、月末の発行にお
け広報委員会で作成されています。原稿案を見させて
いただくと、学年の行事を中心に、子ども達の笑顔あ
ふれる写真が多数掲載されていて微笑ましく思いま
した。私自身、全ての行事に立ち会うことはできません
でしたが、子ども達の成長を感じたことが思い起こさ
れました。たくさんの方々にお世話になって活動ができたことにも感謝します。広報委員さん、
編集作業お疲れさまです。楽しみにしています。



期待されているから・・・

来週9日(木)の持久走大会に向けた学年での練習が続いています。コースを走り終えた1・2年生に「どうでしたか」と尋ねると、多くの子から「今日は〇〇位でした」という声が返ってきます。しばらく話を聞いて「記録はどうか?」「目標タイムはどうする?」と聞き返すと「慣れてきたから本番はいい記録がでると思う」と話してくれます。練習を重ね経験を積むと不安がなくなり、(もっと頑張れそうだ)と思える意欲を高めることができます。

教室で分かっているけど発表となると不安だという子がいます。先生が「大丈夫だよ」と期待の言葉をかけると(じゃ、発表してみようかな)と、たとえ発表できなくても前向きな気持ちが生まれることがあります。分かっているなら発表できるだろうと思いがちですが、分かっていることと話すことは同じではありません。もちろん無理強いはありませんが、先生の期待の言葉は、発表を通して考えを深めてくれることも期待しています。

「人間は必要とされることを必要とする存在である」と先輩の先生に聞いたことがあります。必要とされていること、期待されていることがその人にとって内発的な動機付けになるということでしょう。家族や先生がかける期待で、その子自身が甘やかしてではなく励みとしてかけられた期待の言葉で前向きになれます。

持久走を走り終えた子が「〇〇位以内だったら(家族に)△△がもらえる」と話していました。外発的ですが、褒美も子どもにはストレートな動機付けにはなるようです。「〇〇位以内になりたいんだ」と問うと、「頑張ればいいと思う」とも話していました。できるようになりたい、わかるようになりたい、記録を伸ばしたい・・・という思いはどの子にもあるものです。